

令和元年度 学校の授業等で活用できる「親学習」研修

令和元年8月1日(木曜日)14:00~17:00

児童・生徒が「親と自分の関係」や「親となることの意味」等について学習する機会や、教職員や保護者を対象とした学習機会（親学習）の実施を支援し、その充実を図るため、教職員を対象に学校の授業等で活用できる「親学習」研修を実施しました。参加者は、大阪府の親学習教材「『親』をまなぶ・『親』をつたえる」を使用したワークを体験し、その活用方法等を考えました。

1. 日程／場所 令和元年8月1日（木曜日）／大阪府教育センター
2. 参加者 15人（学校教職員、行政担当者）
3. 内容

(1) 大阪府より「親学習について」

地域教育振興課より、「親学習」の必要性や特徴、実施方法等について説明しました。

(2) ワークショップ「教材を活用した授業展開について」

府内で親学習リーダーとして活動している方々を講師に迎え、親学習ワークの体験と、実践の紹介をしていただきました。

親学習教材「接する」をもとにした「たまごのワーク」と、親学習教材「親を知る」を使った親学習を体験しました。



【ワークショップ①】

初めに、親学習のルールが紹介されました。そして「たまごのワーク」を行いました。まずは、沐浴人形を抱くなどして、赤ちゃんについてイメージします。次に、たまごを赤ちゃんにみたくて、名前を付けたり、顔をかいたりしました。赤ちゃん（たまご）をそっと抱えたり、人に預ける時を想定したりして、子育てをしている親の思いを考えました。それぞれの場面で思いを振り返り、各班から紹介しました。



【ワークショップ②】

親学習教材「親を知る」のエピソードを読み、登場する親と子の気持ちや、参加者自身が同じ立場なら、どうするか・どうして欲しいか等を考えました。そして「親に求める5つの条件」を考えました。「愛情」「信じてくれる」「守ってくれる」などの意見がありました。

(3) 参加者の感想

- ・初めて「親学習」の研修を受けさせていただきました。とても面白く、きっと、子どもたちも楽しみながら、親となること、今の自分を見つめなおす機会になると思います。
- ・様々な家庭背景を抱える児童が、どんな状況でもあなたたちのことを大切にしてくれていたんだということを少しでも感じて、親について一緒に考えたり、また、何らかの形で保護者自身にも「親学習」を考えていただく機会を設けたいと感じています。
- ・子どもの気持ち、親の気持ちになれて、学びやすいです。班交流で多様な考え方を知れ、取り入れられそうです。
- ・ワークもとても有意義で、教材の紹介もあり、夏休みに調べて、2学期以降で使っていきたいと思います。